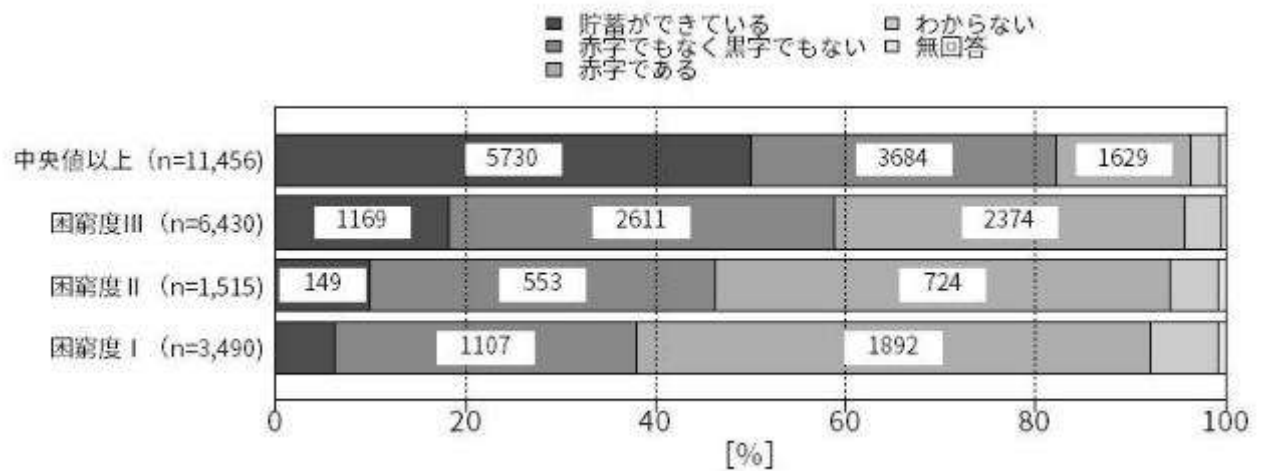


困窮度別に見た、家計状況（保護者票 問6(1)）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

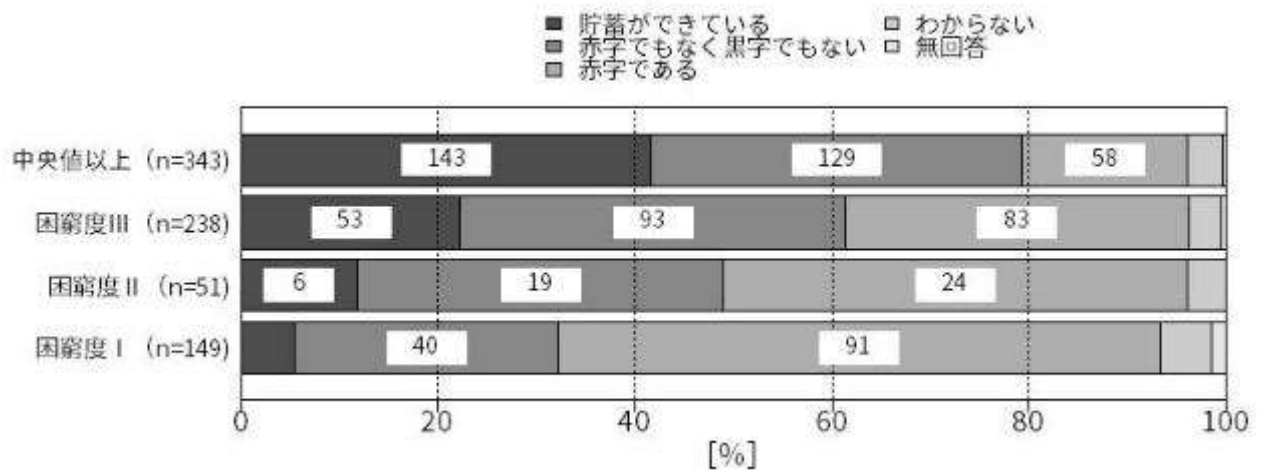
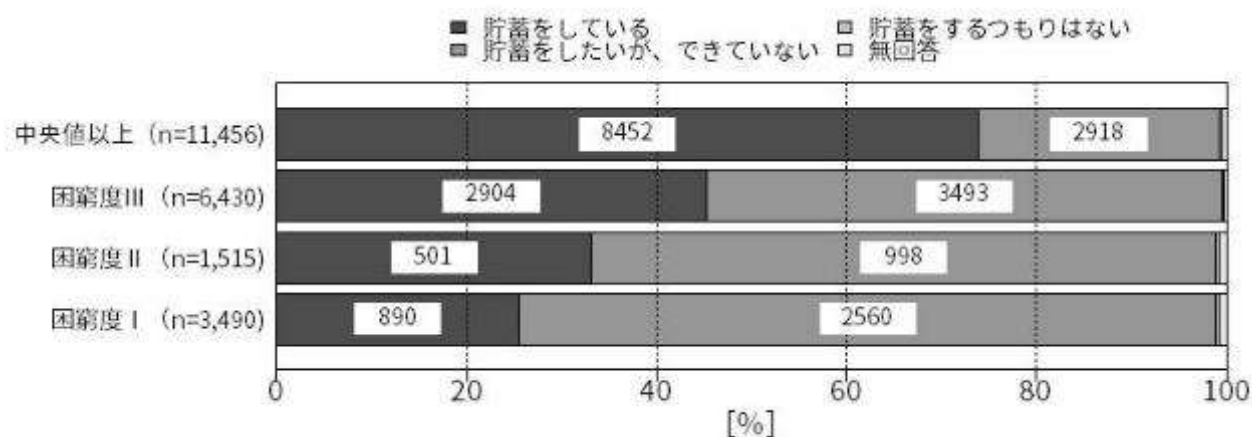


図 121. 困窮度別に見た、家計状況

困窮度別に見た家計の状況を見ると、中央値以上群では、「赤字である」と回答した世帯の割合は 16.9%であったのに対して、困窮度Ⅰ群では、61.1%であった。

困窮度別に見た、子どものための貯蓄（保護者票 問 6(3)）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

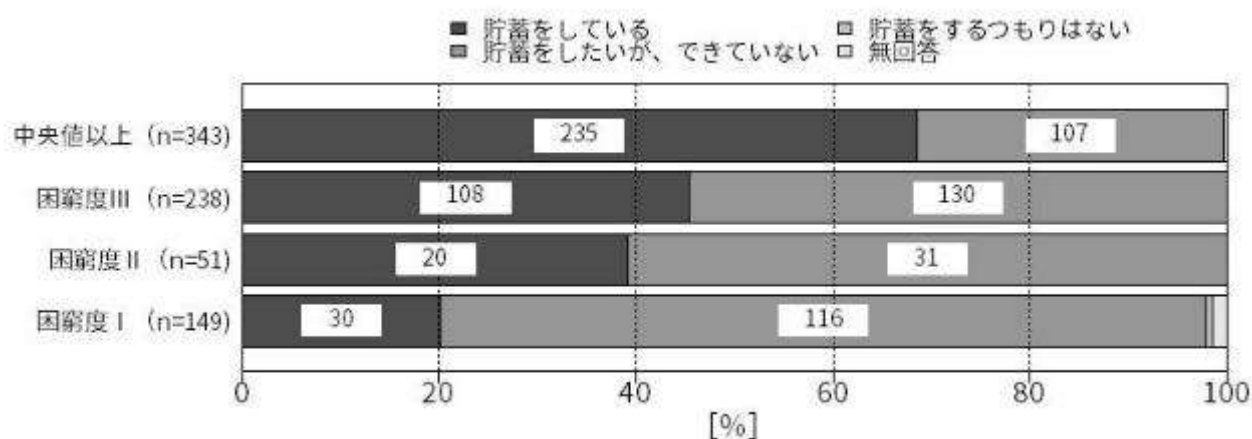
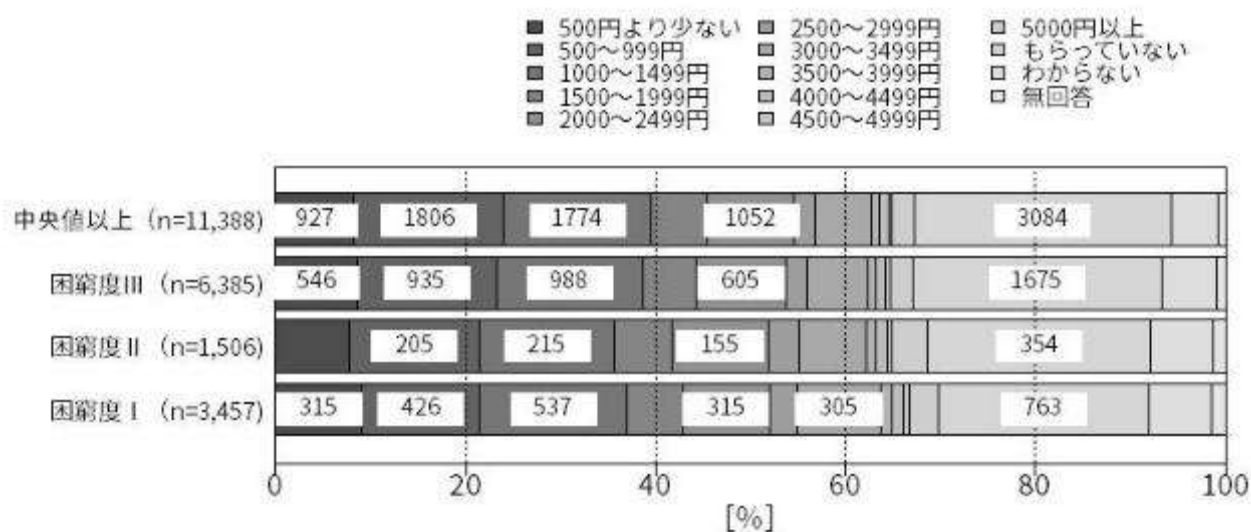


図 122. 困窮度別に見た、子どものための貯蓄

困窮度別に子どものための貯蓄を見ると中央値以上群では、「貯蓄をしている」と回答する割合が 68.5%であったが、困窮度Ⅰ群では 20.1%であり、「貯蓄をしたいが、できていない」と回答する割合が 77.9%であった。

困窮度別に見た、おこづかいの金額分布（子ども票 問 20(1)）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

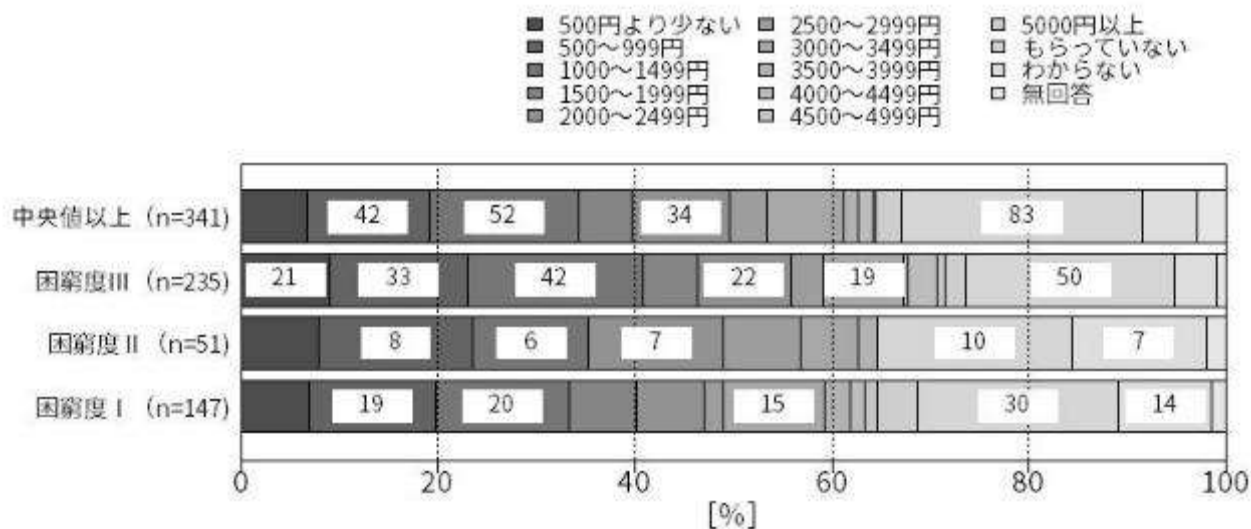
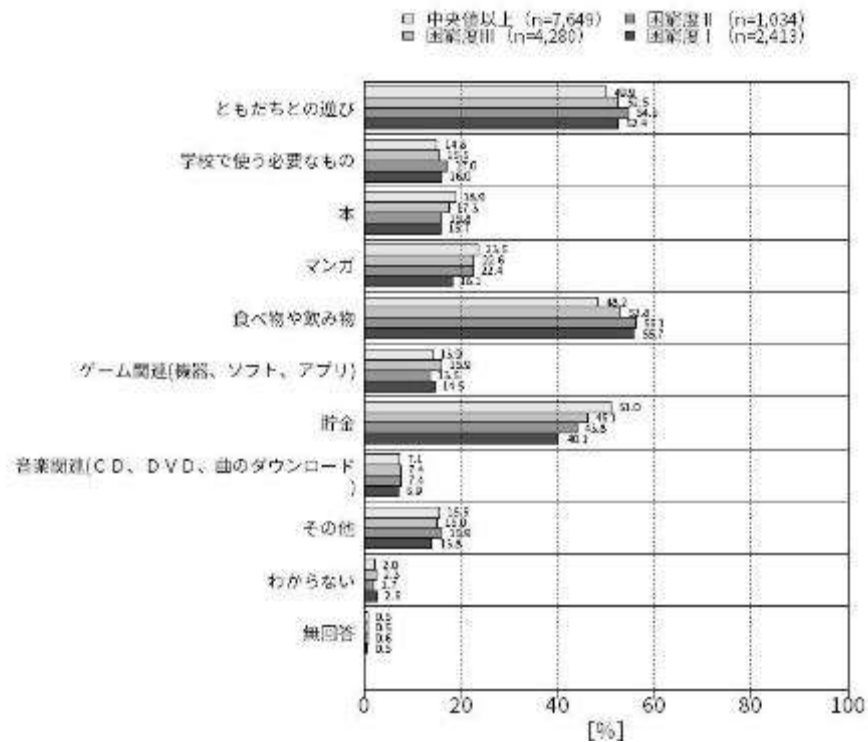


図 123. 困窮度別に見た、おこづかいの金額分布

困窮度別におこづかいの金額分布を見ると、困窮度による大きな違いは見られない。おこづかいをもらっているが、その用途や必要な物は親に購入してもらっているか、など詳細をみる必要がある。

困窮度別に見た、おこづかいの使い方（子ども票 問 20(3)）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

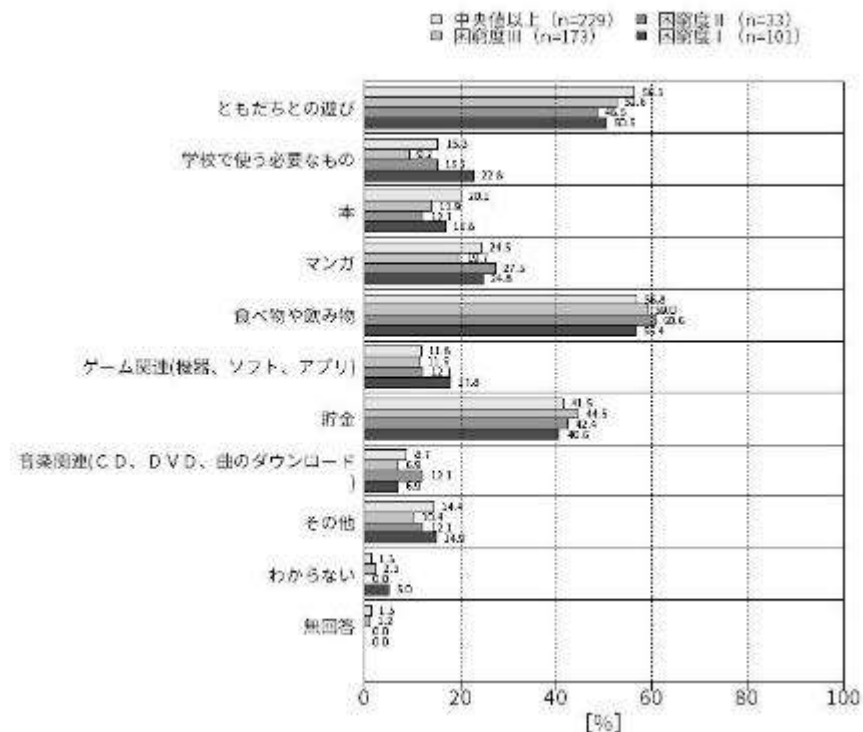


図 124. 困窮度別に見た、おこづかいの使い方

困窮度別におこづかいの使い方を見ると、「貯金」が中央値以上群 41.5%であったのに対して、困窮度Ⅱ群で 42.4%、困窮度Ⅰ群では 40.6%であった。

＜経済状況に関する考察＞

経済的な理由で生じた生活上の困難に関する質問項目は、現在の日本社会で「通常であれば可能な生活」を想定して任意に設定している。そのため、「どれにも当てはまらない」という回答はその水準に該当することを意味するが、中央値以上の群では、38.2%がそれに該当すると回答したのに対して、困窮度Ⅰの群では5.4%にとどまった。困窮度が深刻化するにしたがって、生活面の困難は深刻化する傾向がある。困窮した経験をした数の平均値は、中央値以上の群では2.2であるのに対して、困窮度Ⅰでは6.2であった。中央値以上の群が2%以下であるのに対して、困窮度Ⅰの群で割合が高かったものとしては「電話などの通信料の支払いが滞ったことがある」の12.1%、「敷金・補償金などを用意できないので住み替え・転居を断念した」の12.8%、「電気・ガス・水道などが止められた」の13.4%、「家賃や住宅ローンの支払いが滞ったことがある」の14.8%、「国民健康保険料の支払いが滞ったことがある」の25.5%などがある。生活面で大きな格差が存在することが見える。また、「国民年金の支払いが滞ったことがある」という項目では困窮度Ⅰの群では22.8%が該当すると回答していた。これは、単に現在の生活状況の困窮度を示すだけでなく、保護者の将来的な生活困窮を示唆するものである。このような生活上の困難さは、心理面にも影響を与えており、「生活の見通しが立たなくて不安になった」と回答する世帯の割合は、中央値以上の群では6.7%であったのに対し、困窮度Ⅰでは42.3%の世帯が該当すると回答している。

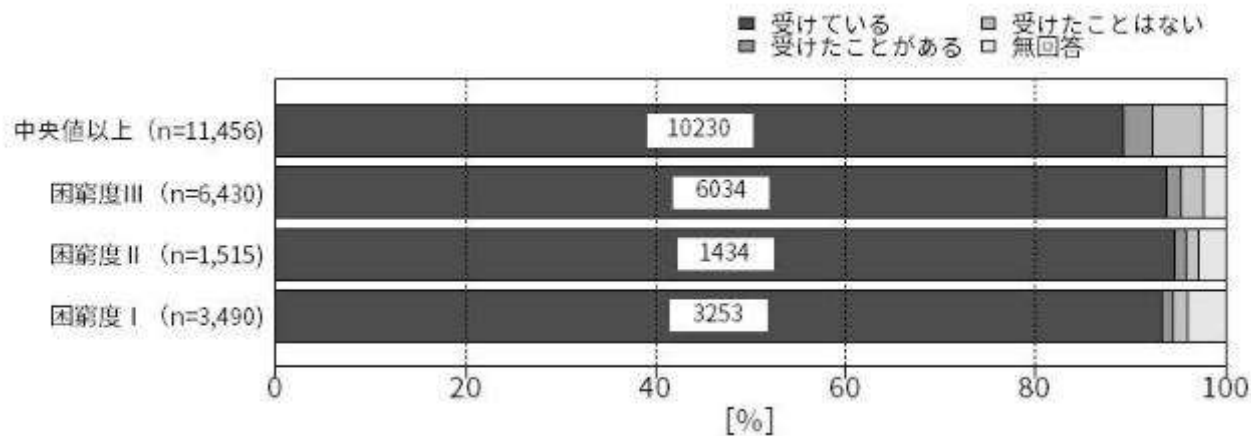
世帯の経済状況は、子どもの生活状況にも反映されていることが結果から確認することができる。困窮度Ⅰの群では、「子どもを医療機関に受診させることができなかった」に3.4%、「子どもの進路を変更した」に4.0%が該当すると回答している。中央値以上の群では同様の質問に該当すると回答したのは1%前後であった。

学習面や習い事、家族での余暇の機会の差は、子どもの成長過程にも、子どもの日常生活にも影響を与えることが予測される。困窮度Ⅰの群の18.8%が「子どもを学習塾に通わすことができなかった」、28.2%が「子どもを習い事に通わすことができなかった」、38.3%が「家族旅行（テーマパークなど日帰りのおでかけを含む）」と回答した。同様の項目における、中央値以上の群の該当者の割合を見ると、6.1%、6.7%、10.2%となっており、子どもの体験にも格差が生じている。「どれにも当てはまらない」と回答している世帯が、中央値以上の群で65.0%であり、子どもに対して困難なく資源や機会を提供できている家庭が中央値以上では過半数以上であるということに注意する必要があるだろう。

(2) 家庭状況（制度等）

困窮度別に見た、児童手当（保護者票 問 30(3)①)

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

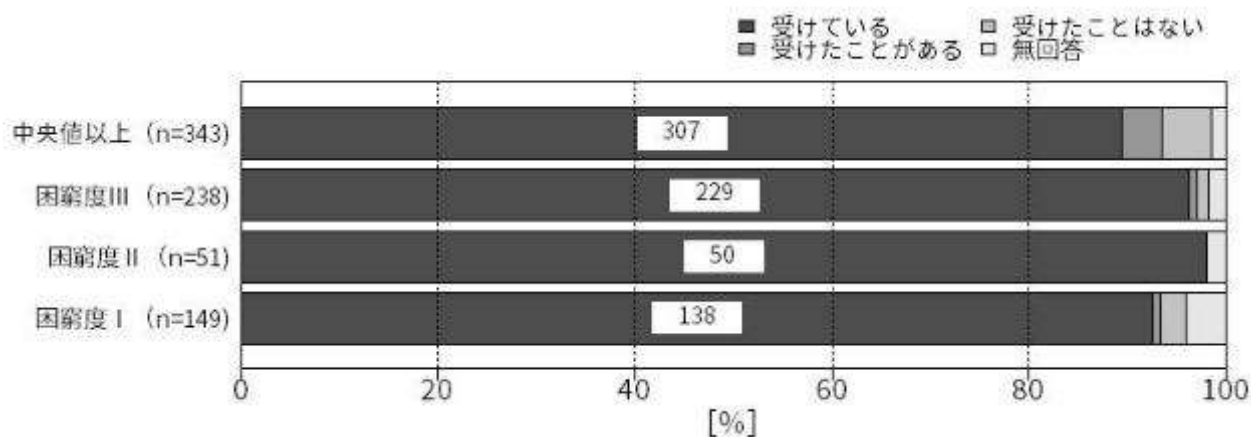
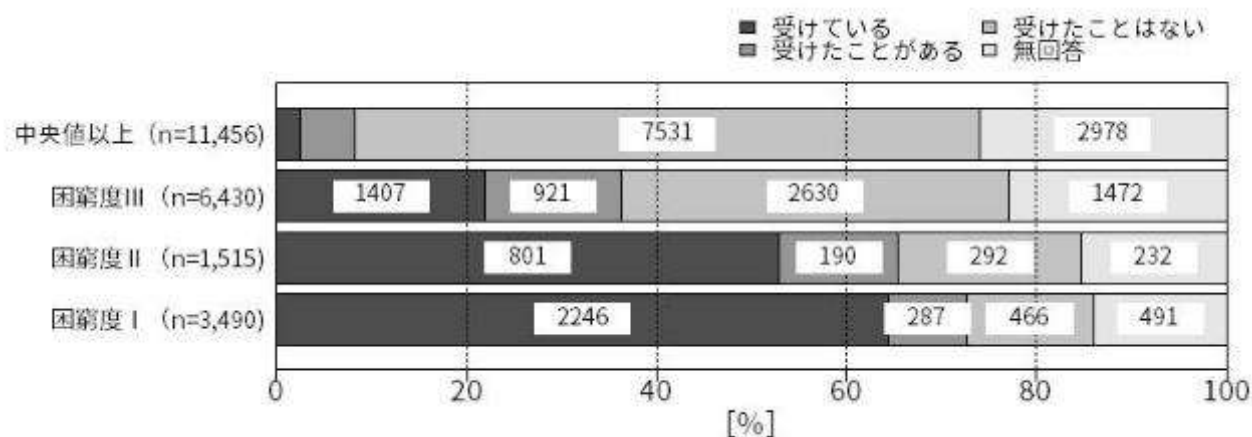


図 125. 困窮度別に見た、児童手当

児童手当は多くの世帯が受給していた。困窮度別に児童手当の受給率を見ると、困窮度Ⅰ～Ⅲ群において、とりわけ多くの世帯（92.6%～98%）が「受けている」に回答した。

困窮度別に見た、就学援助費（保護者票 問 30(3)②）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

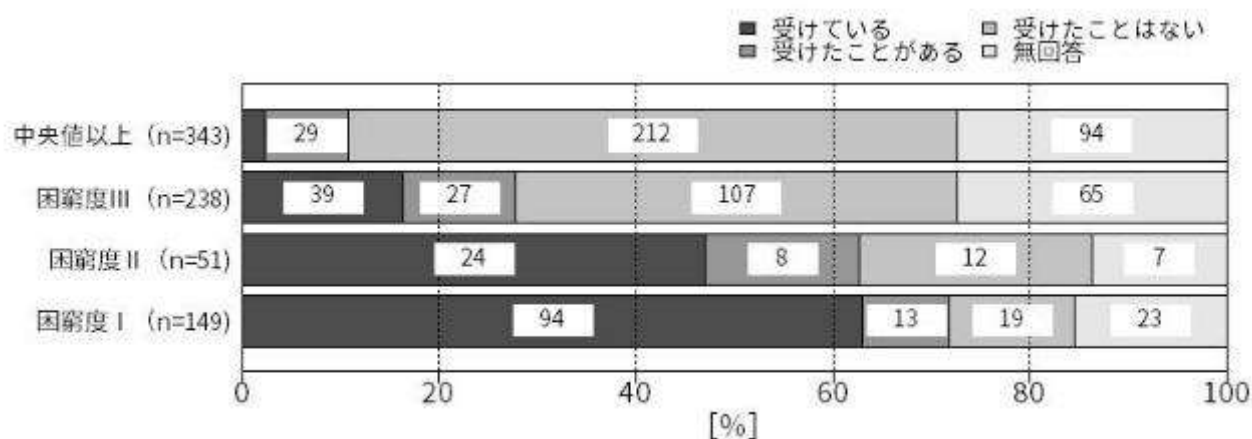
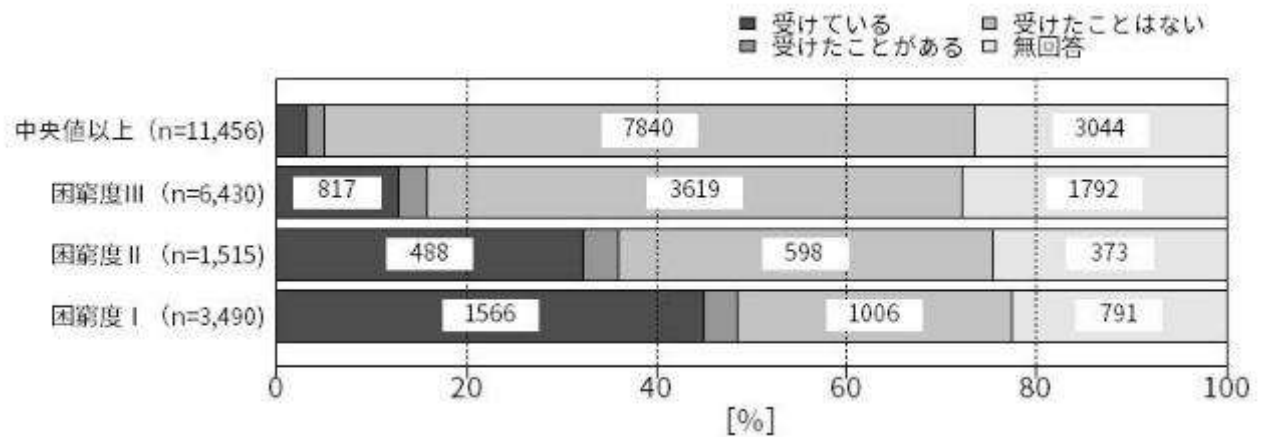


図 126. 困窮度別に見た、就学援助費

困窮度別に就学援助費の受給率を見ると、困窮度が高まるにつれ、「受けている」の割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群では、63.1%が受けていると回答した。

困窮度別に見た、児童扶養手当（保護者票 問 30(3)③）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

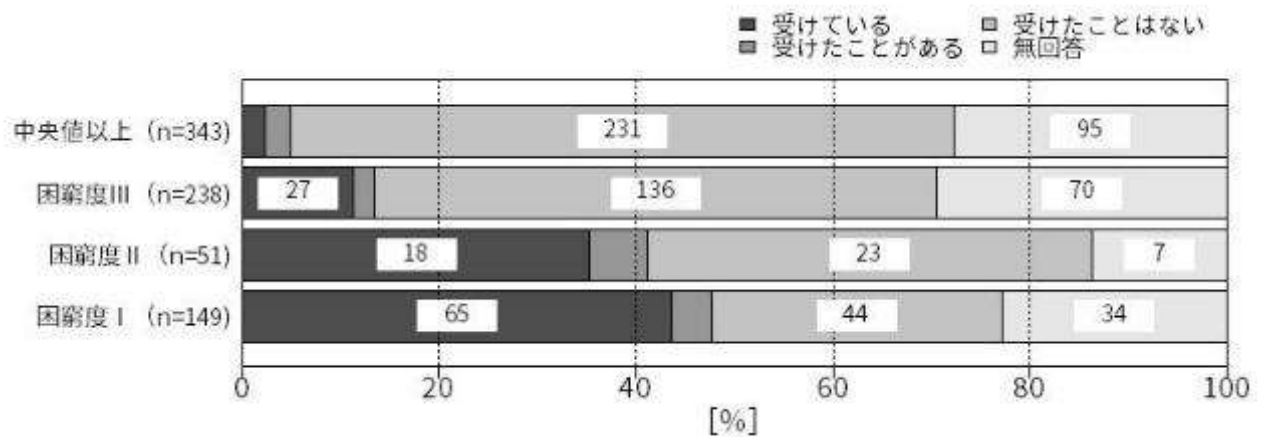


図 127. 困窮度別に見た、児童扶養手当

困窮度別に児童扶養手当の受給率を見ると、困窮度が高まるにつれ、「受けている」の割合が高くなっている。

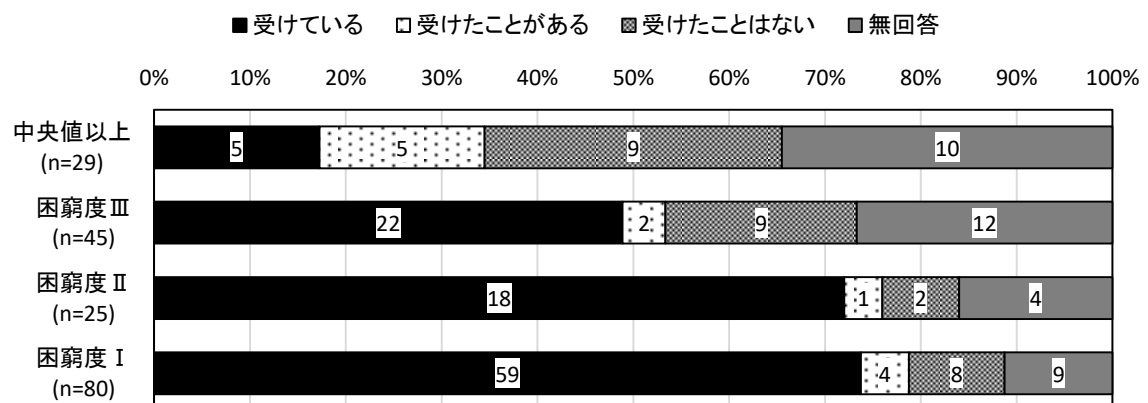
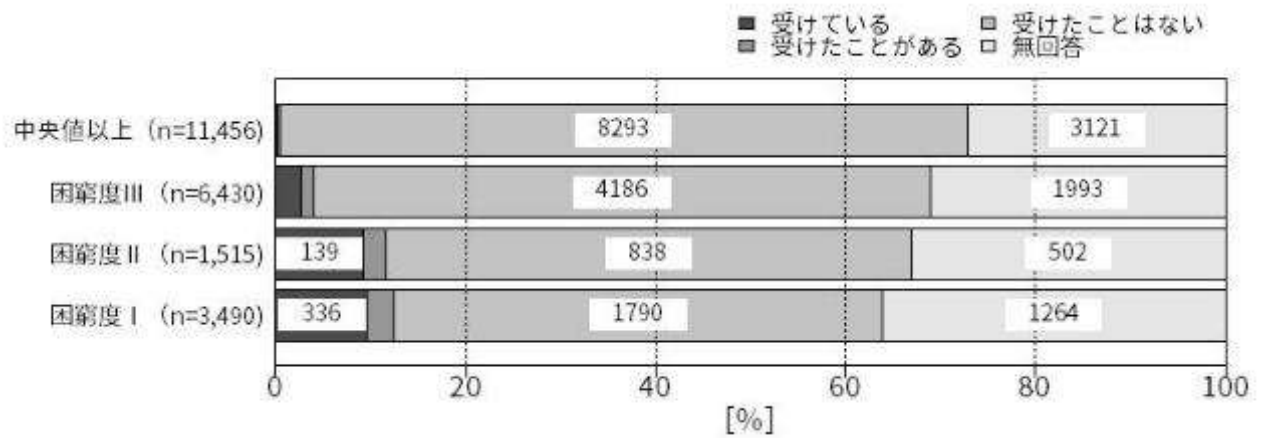


図 127 の補足図. 困窮度別に見た、児童扶養手当（ひとり親）

困窮度別に見た、生活保護（保護者票 問 30 (3) ⑤)

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

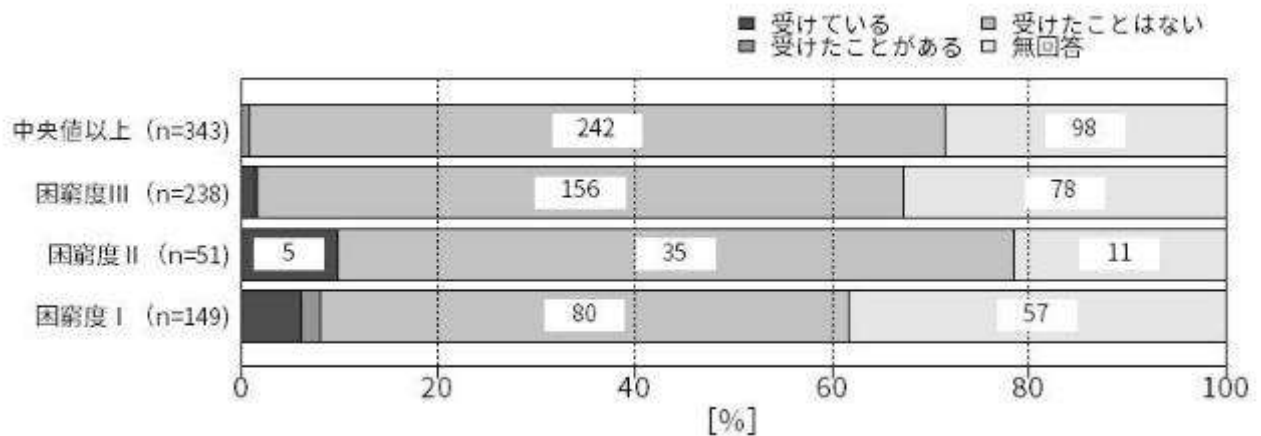


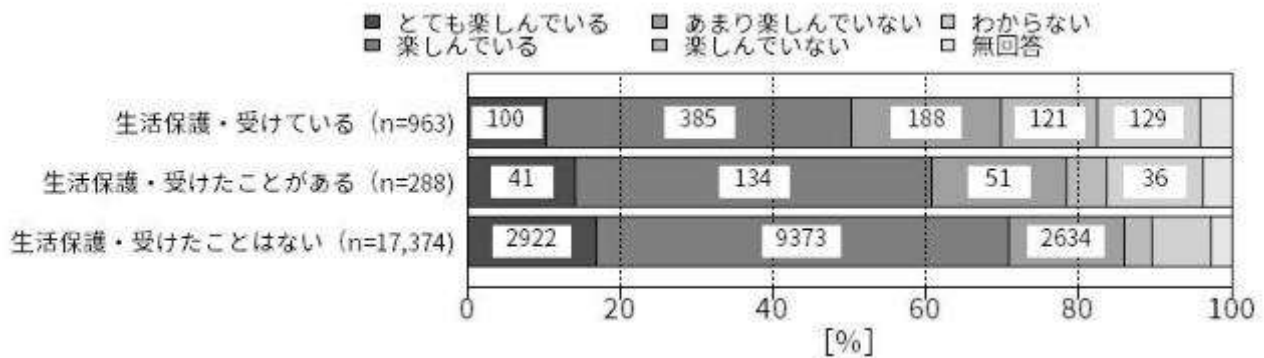
図 128. 困窮度別に見た、生活保護

困窮度別に生活保護の受給率を見ると、困窮度Ⅰ群においては「受けている」と回答した人は6%であった。困窮度が高まるにつれ、「受けている」の割合が高くなっている。

生活保護の受給別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）

（保護者票 問 30(3)⑤ × 保護者票 問 25(1)）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

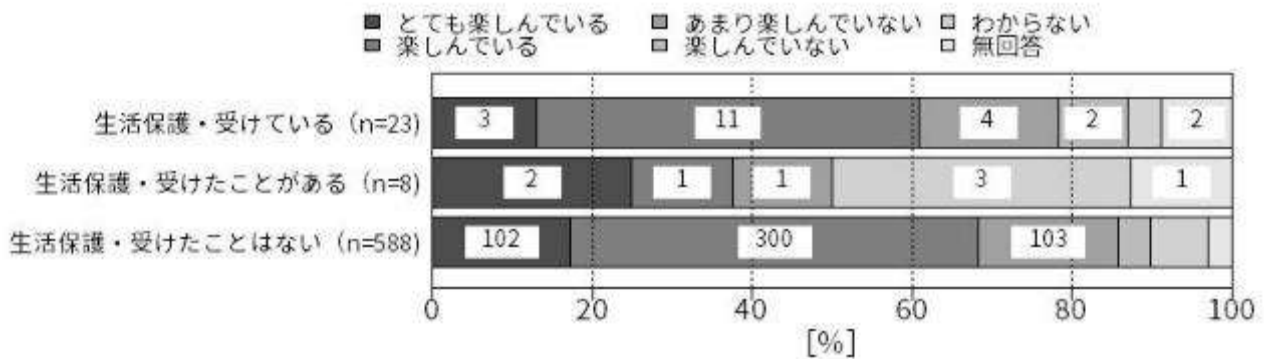


図 129. 生活保護の受給別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）

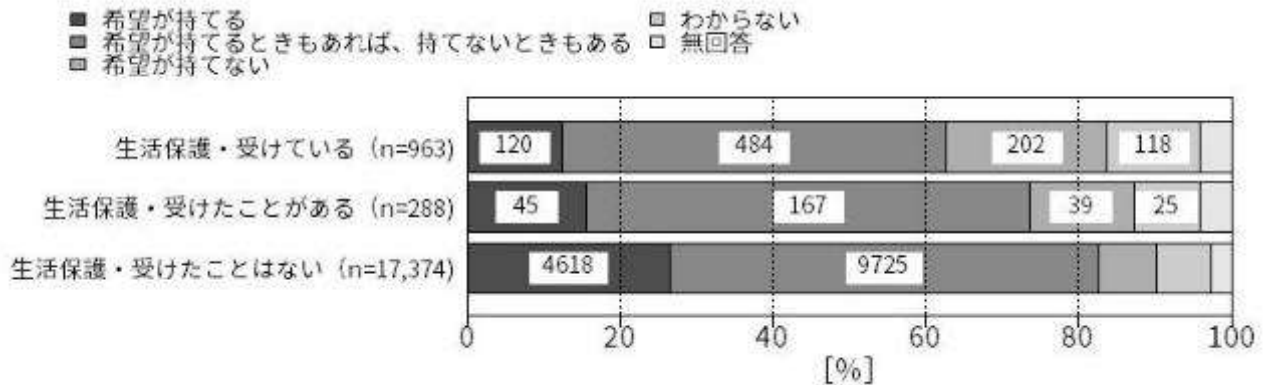
生活保護を受けたことがある世帯は少なかったため、この群と比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、生活を「楽しんでいる」という回答が 8.7%、生活保護を受けたことがない世帯では 3.9%であった。

生活保護の受給別に見た、心の状態（将来への希望）

（保護者票 問 30(3)⑤ × 保護者票 問 25(2)）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

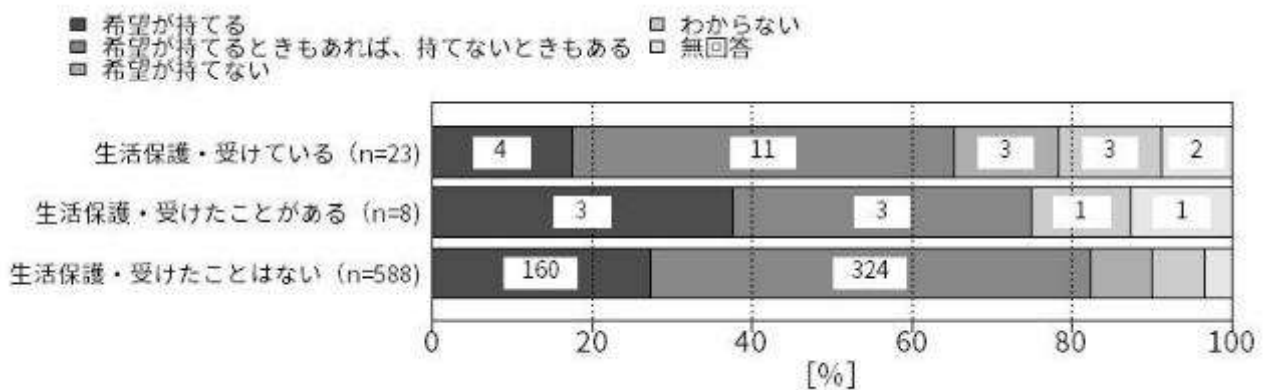


図 130. 生活保護の受給別に見た、心の状態（将来への希望）

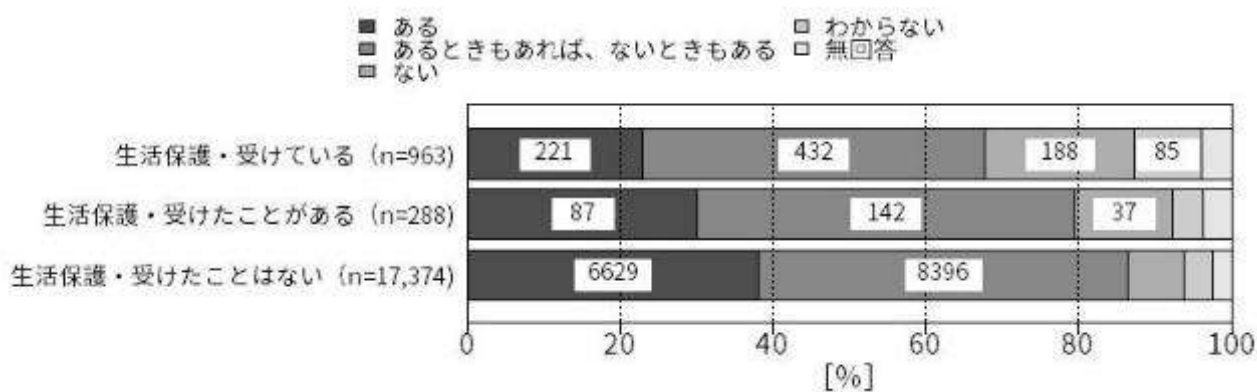
生活保護を受けたことがある世帯は少なかったため、この群と比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、将来に対して「希望が持てない」という回答が 13.0%、生活保護を受けたことがない世帯では 7.7%であった。

生活保護の受給別に見た、心の状態（ストレス発散できるもの）

（保護者票 問 30(3)⑤ × 保護者票 問 25(3)）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

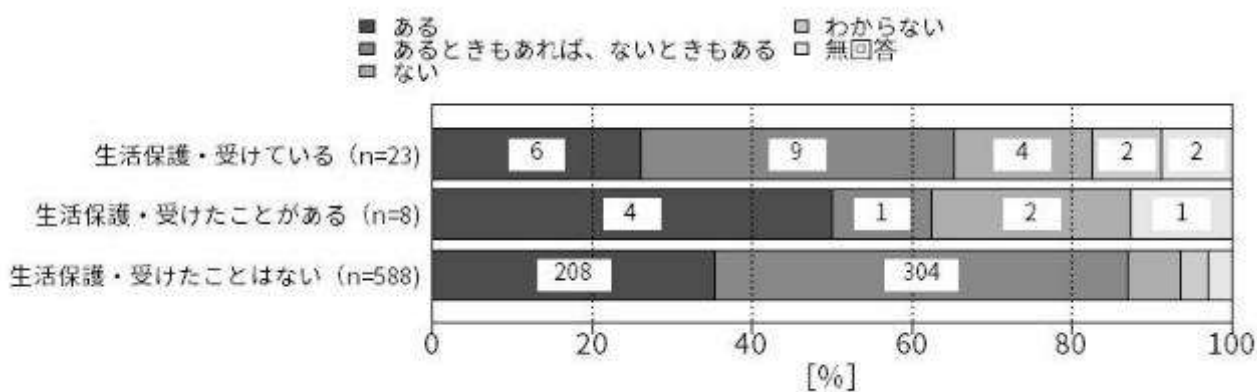


図 131. 生活保護の受給別に見た、心の状態（ストレス発散できるもの）

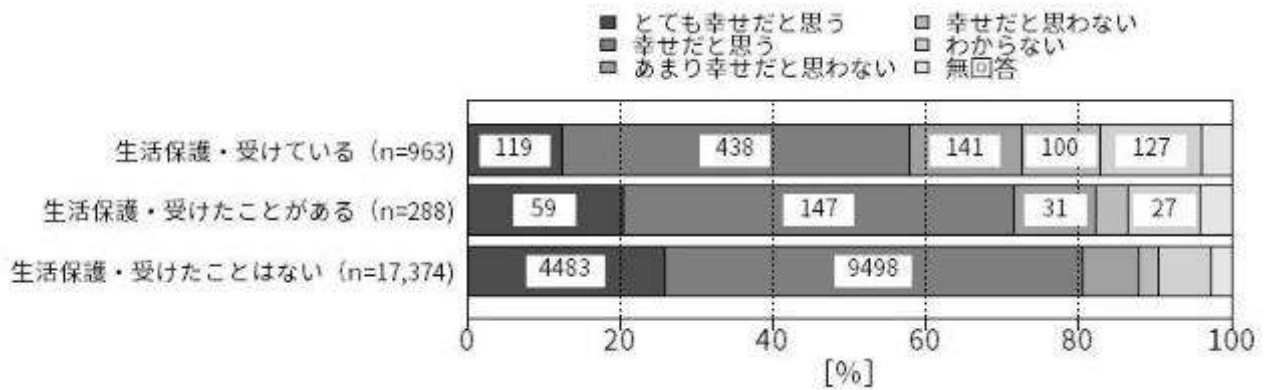
生活保護を受けたことがある世帯は少なかったため、この群と比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、ストレスを発散できるものが「ない」という回答が 17.4%、生活保護を受けたことがない世帯では 6.6%であった。

生活保護の受給別に見た、心の状態（幸せだと思うか）

（保護者票 問 30(3)⑤ × 保護者票 問 25(4)）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

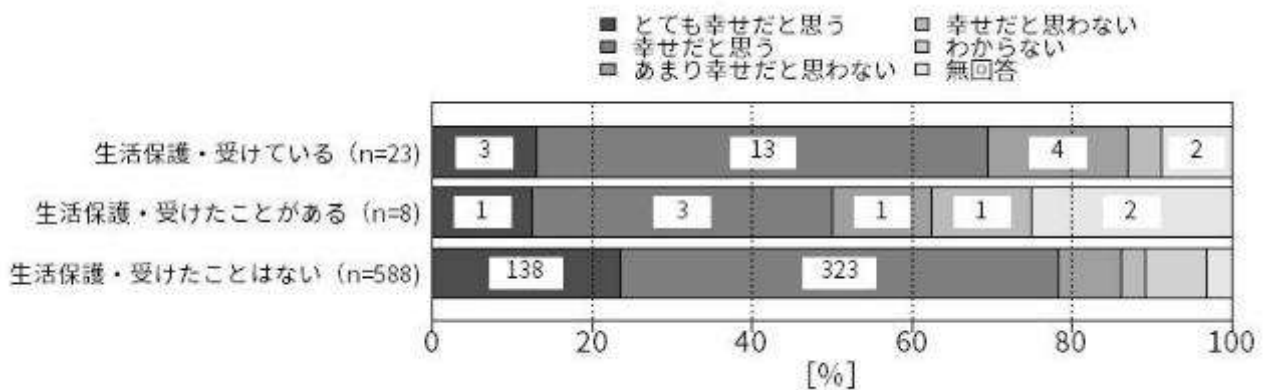


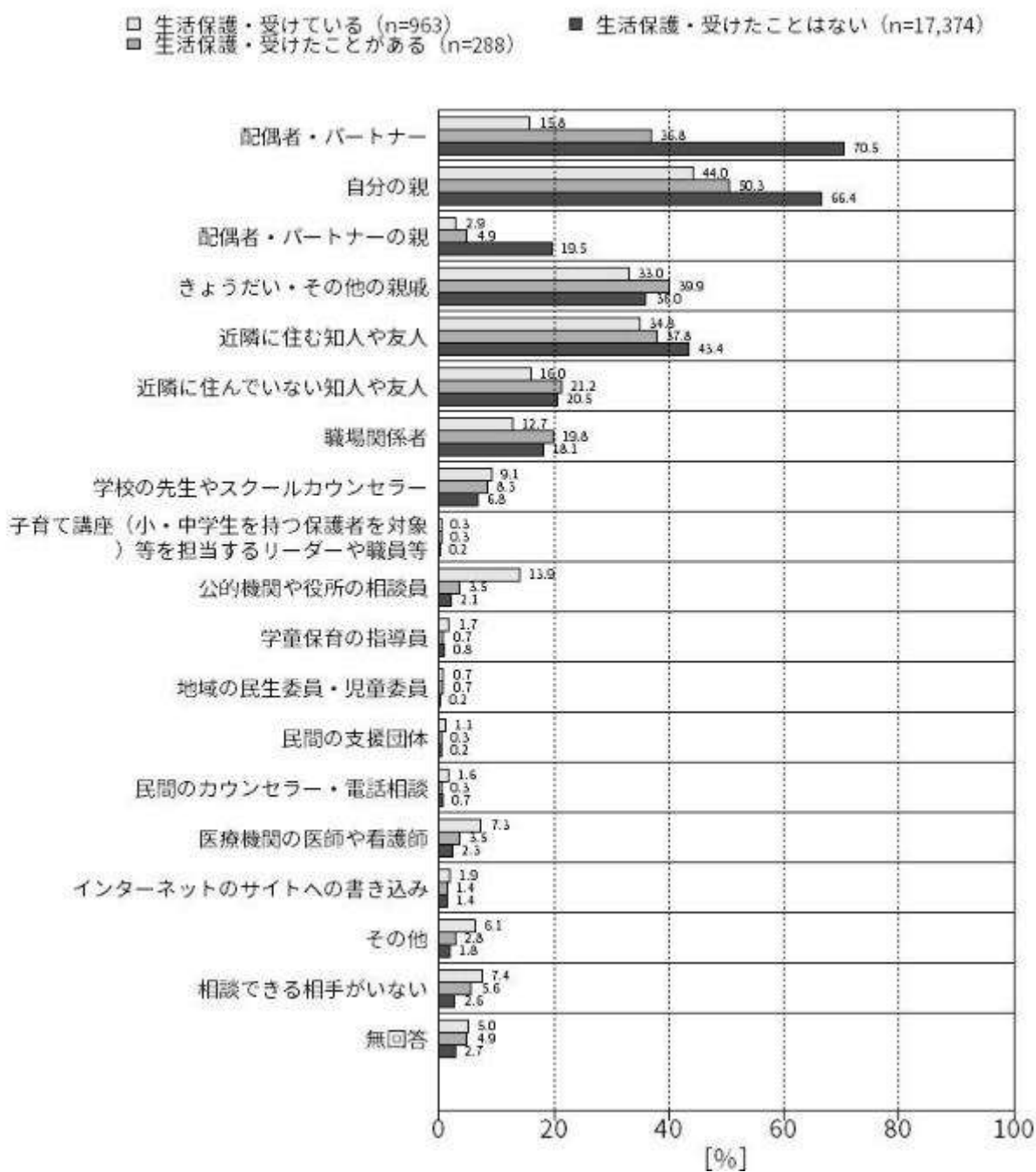
図 132. 生活保護の受給別に見た、心の状態（幸せだと思うか）

生活保護を受けたことがある世帯は少なかったため、この群と比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けていない世帯では、「とても幸せだと思う」という回答が 23.5%、生活保護を受けている世帯では 13.0%であった。

生活保護の受給別に見た、困ったときの相談先（保護者票 問 30(3)⑤ × 保護者票 問 24)

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

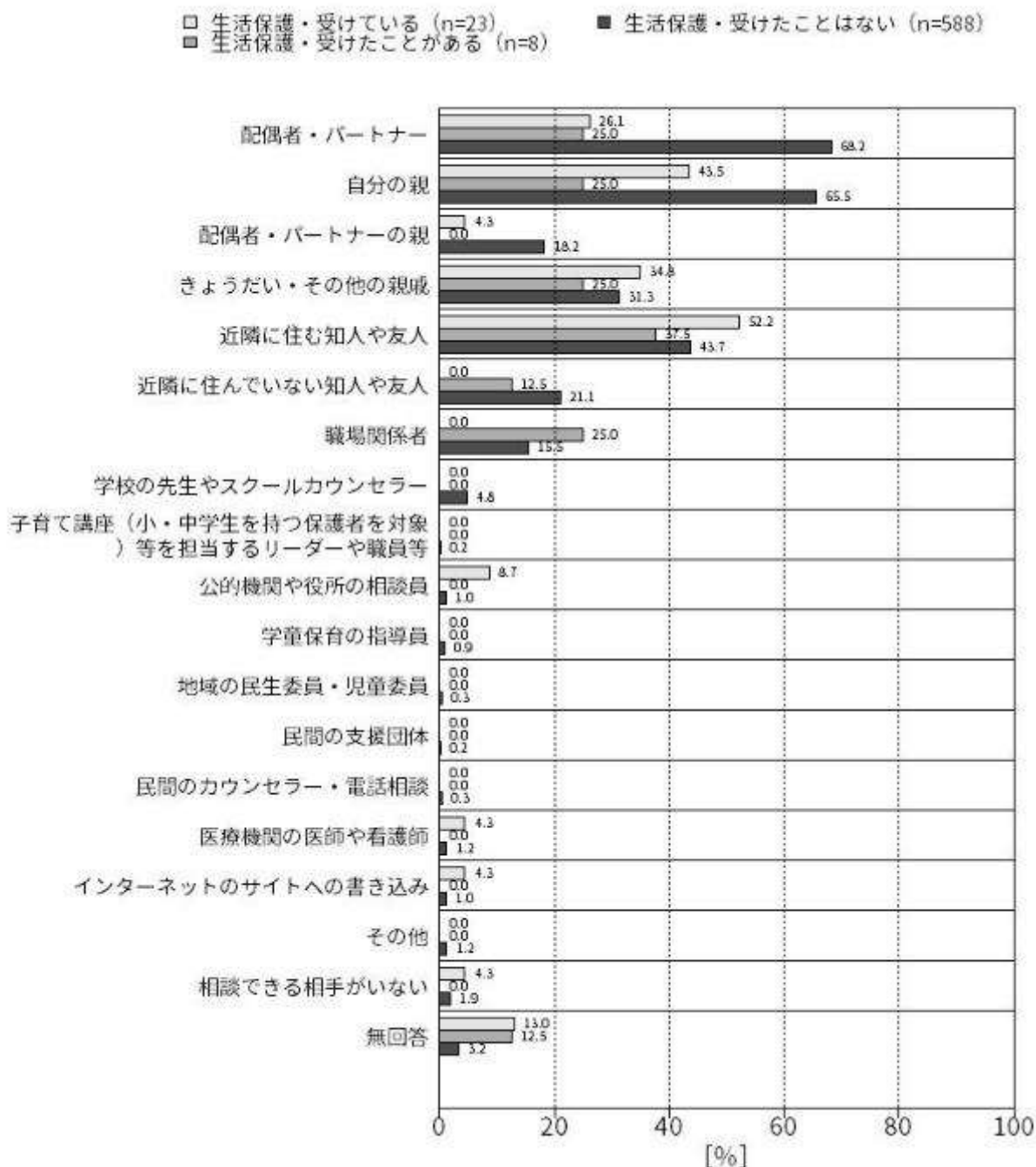


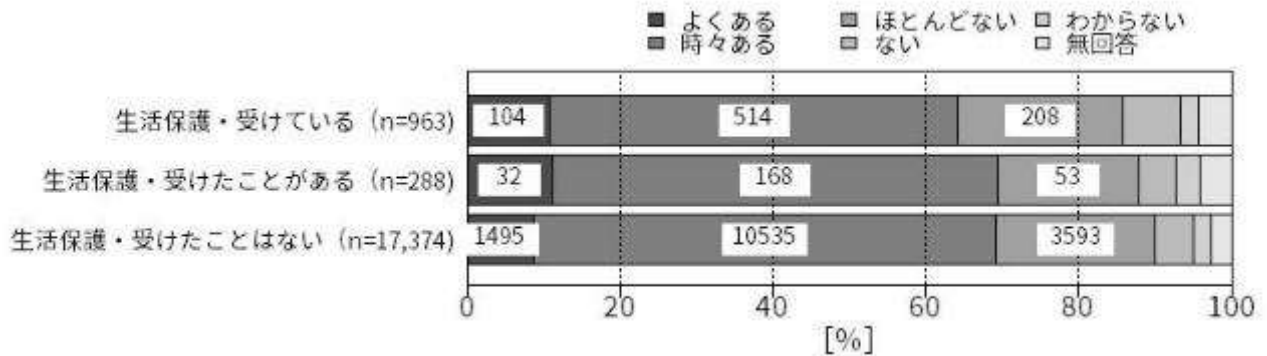
図 133. 生活保護の受給別に見た、困ったときの相談先

生活保護を受けたことがある世帯は少なかったため、この群と比較して傾向を述べることはできない。

「相談できる相手がいない」という回答に着目すると、生活保護を受けている世帯では4.3%、生活保護を受けたことがない世帯では1.9%であった。

生活保護の受給別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと
(保護者票 問 30(3)⑤ × 保護者票 問 27)

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

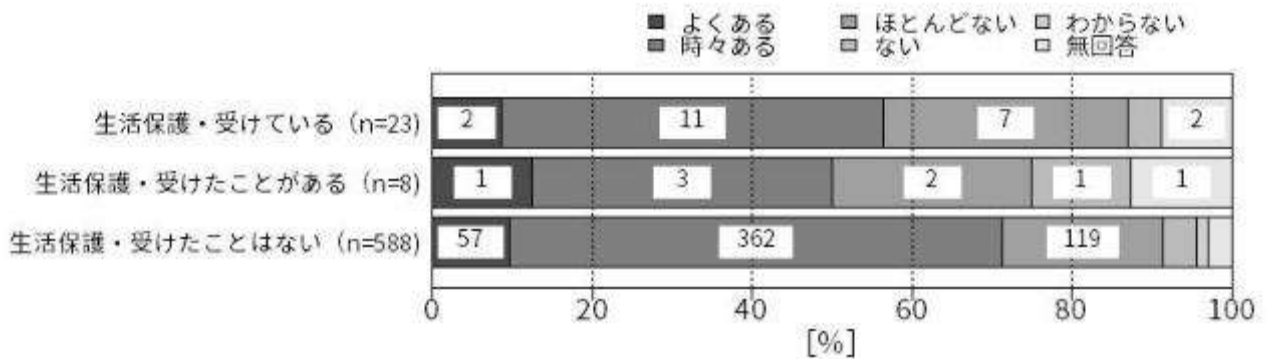


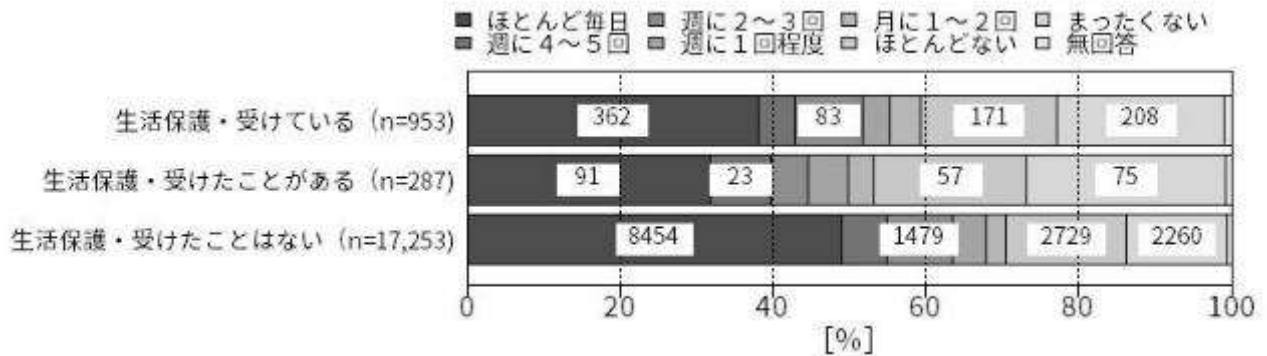
図 134. 生活保護の受給別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと

生活保護を受けたことがある世帯は少なかったため、この群と比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうことが「時々ある」と回答した人が 47.8%、生活保護を受けたことがない世帯では 61.6%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と朝食を食べるか）
 （保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10①）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

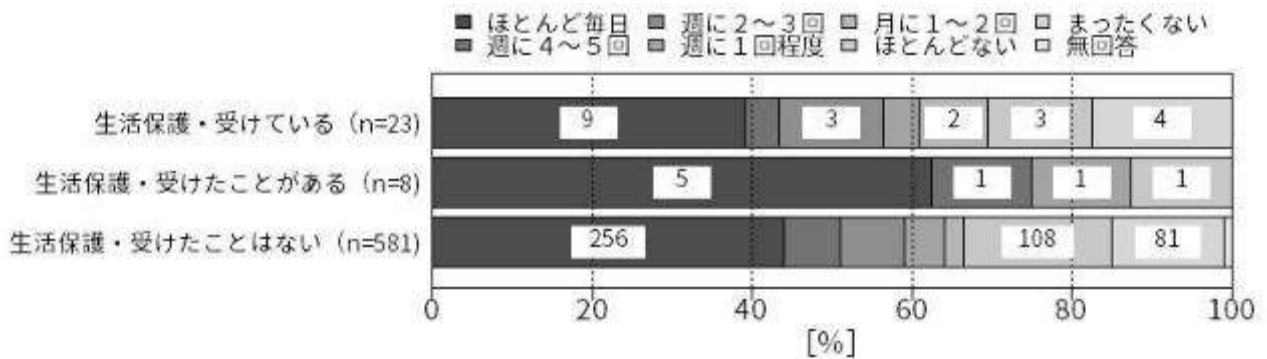


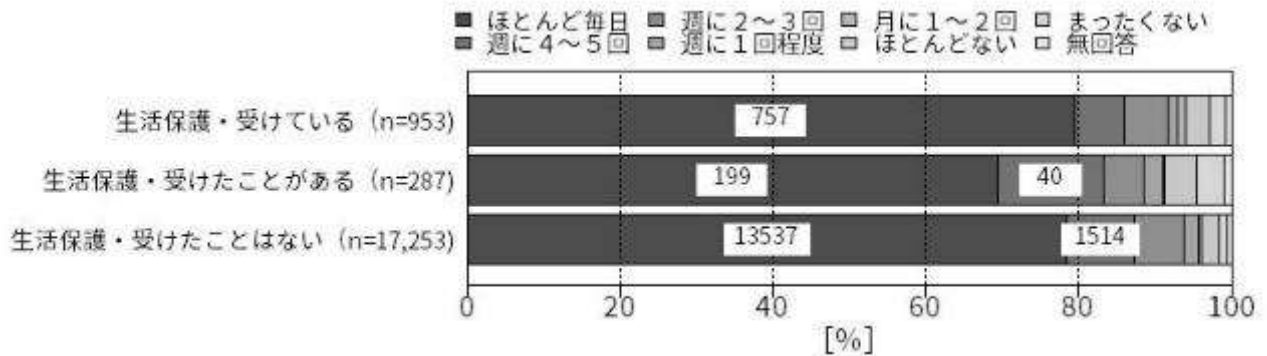
図 135. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
 （おうちの大人と朝食を食べるか）

生活保護を受けたことがある世帯は少なかったため、この群と比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯と生活保護を受けたことがない世帯とで、大きな差は見られなかった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）
 （保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10②）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

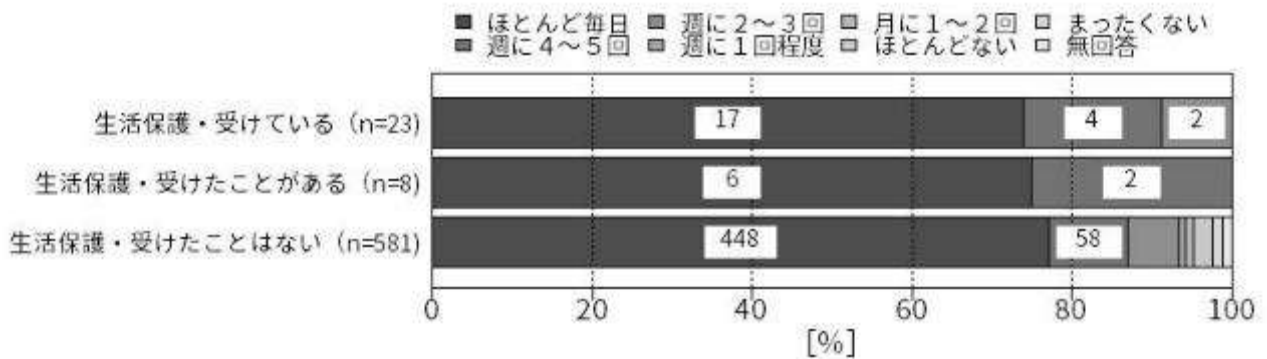


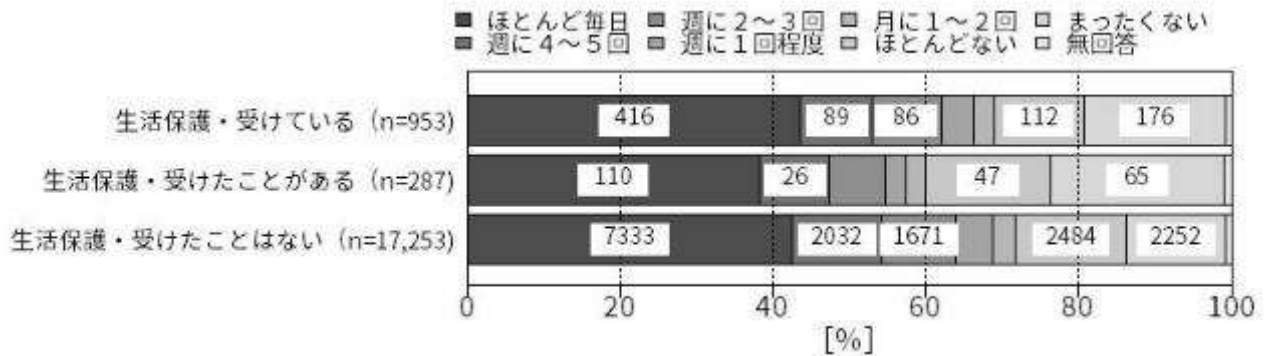
図 136. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
 （おうちの大人と夕食を食べるか）

生活保護を受けたことがある世帯は少なかったため、この群と比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯と生活保護を受けたことがない世帯とで、大きな差は見られなかった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に朝、起こされるか）
 （保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10③）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

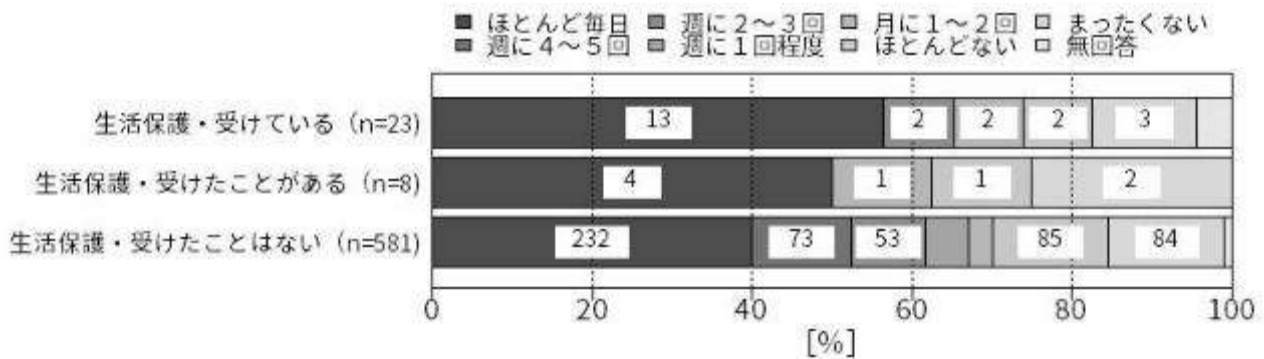


図 137. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
 （おうちの大人に朝、起こされるか）

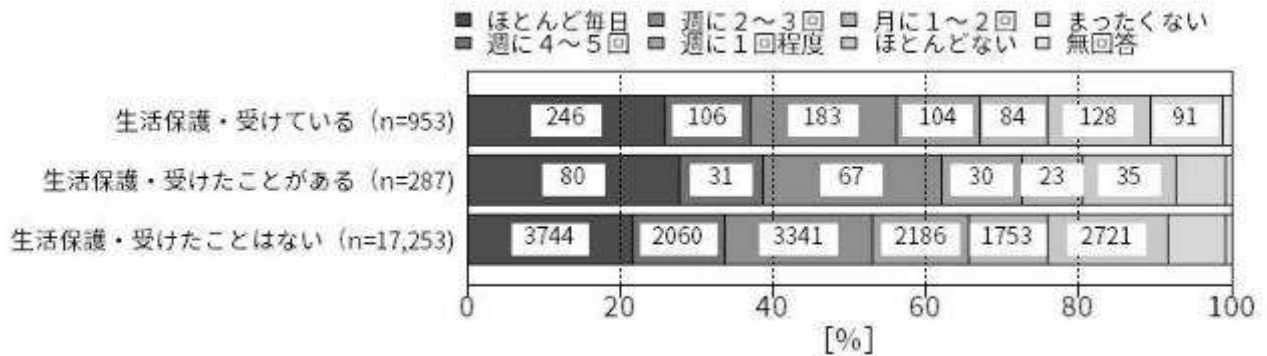
生活保護を受けたことがある世帯は少なかったため、この群と比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人に朝起こされることが「ほとんど毎日」と回答した人が 56.5%、生活保護を受けたことがない世帯では 39.9%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（家の手伝いをするか）

（保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10④）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

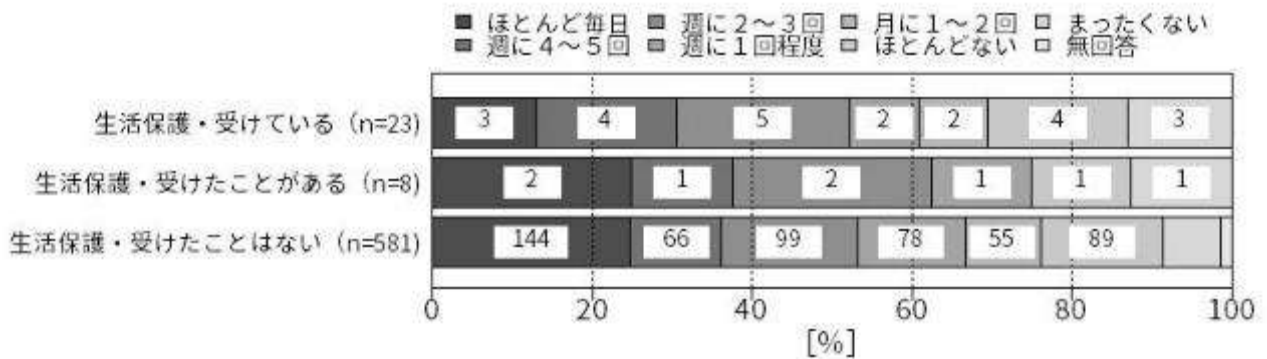


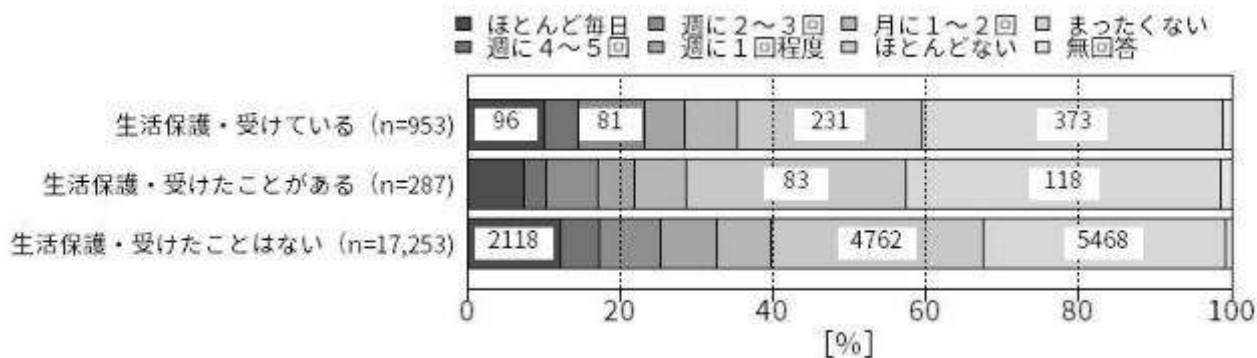
図 138. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
（家の手伝いをするか）

生活保護を受けたことがある世帯は少なかったため、この群と比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、おうちの手伝いをするのが「ほとんど毎日」と回答した子どもが 13.0%、生活保護を受けたことがない世帯では 24.8%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）
（保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10⑤）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

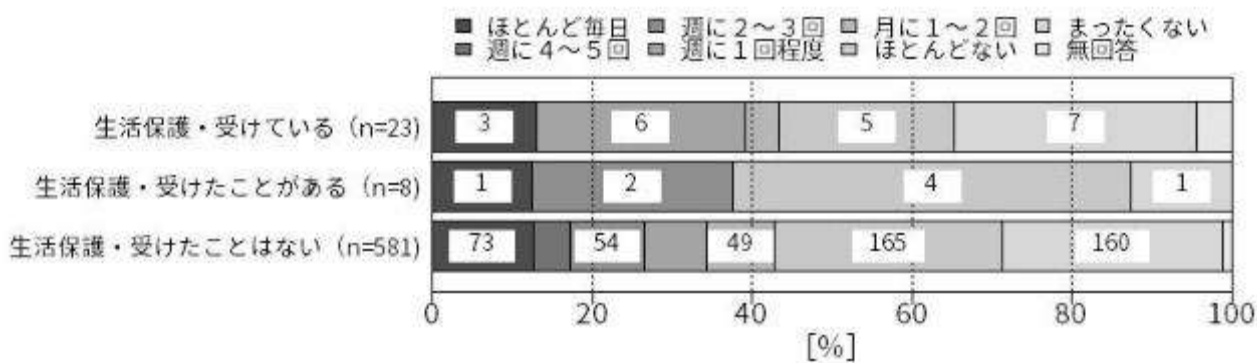


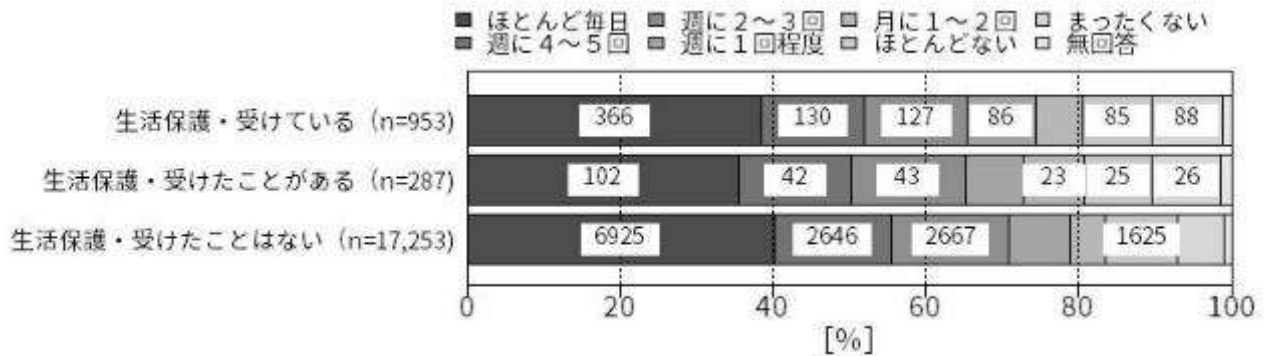
図 139. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
（おうちの大人に宿題をみてもらうか）

生活保護を受けたことがある世帯は少なかったため、この群と比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けているかどうかによって、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらう頻度にな大きな差は見られなかった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と学校の話をするか）
 （保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10⑥）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

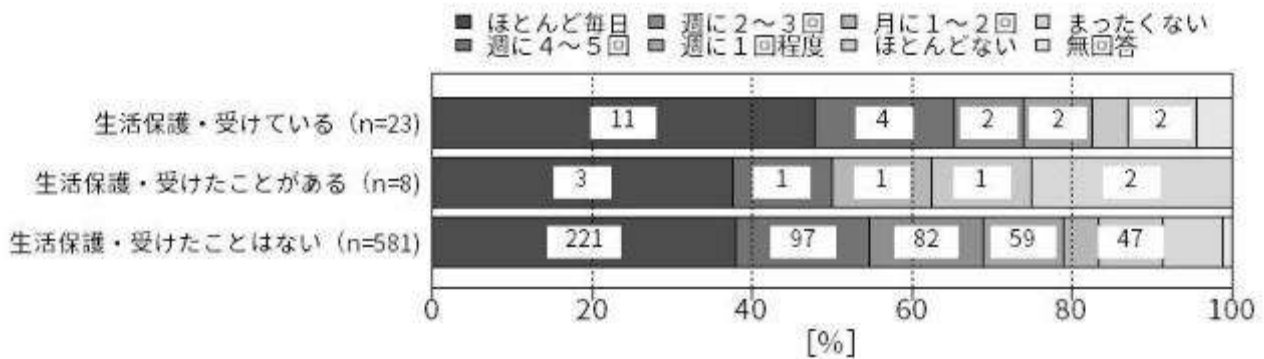


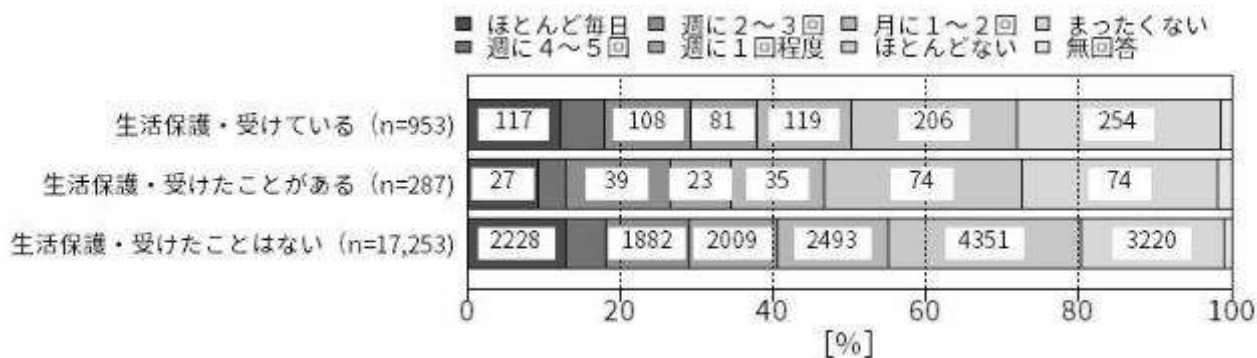
図 140. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
 （おうちの大人と学校の話をするか）

生活保護を受けたことがある世帯は少なかったため、この群と比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人と学校のできごとについて話すことが「ほとんど毎日」と回答した子どもが 47.8%、生活保護を受けたことがない世帯では 38.0%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と遊んだり、体を動かすか）
（保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10⑦）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

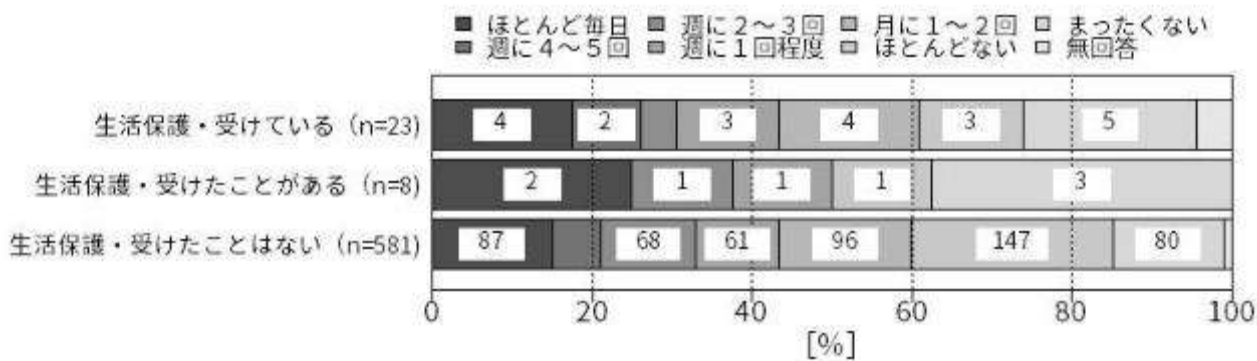


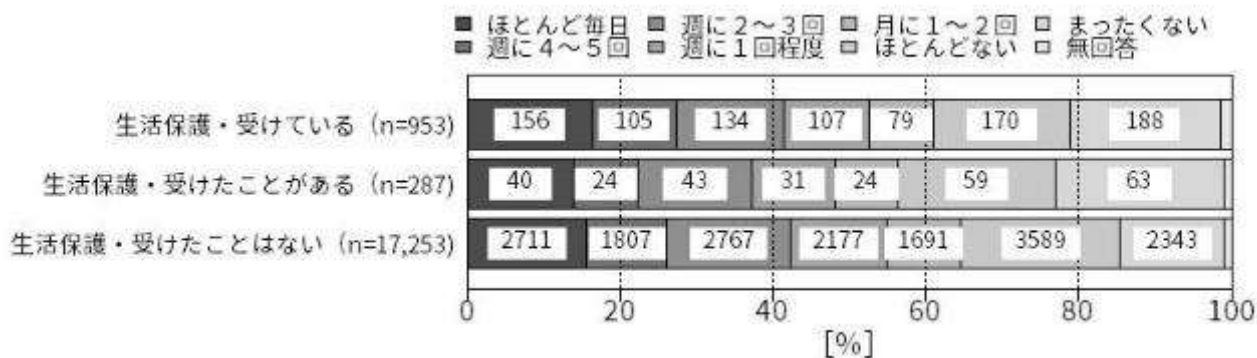
図 141. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
（おうちの大人と遊んだり、体を動かすか）

生活保護を受けたことがある世帯は少なかったため、この群と比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりすることが「まったく」と回答した子どもが 21.7%、生活保護を受けたことがない世帯では 13.8%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と社会のできごとを話すか）
（保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10⑧）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

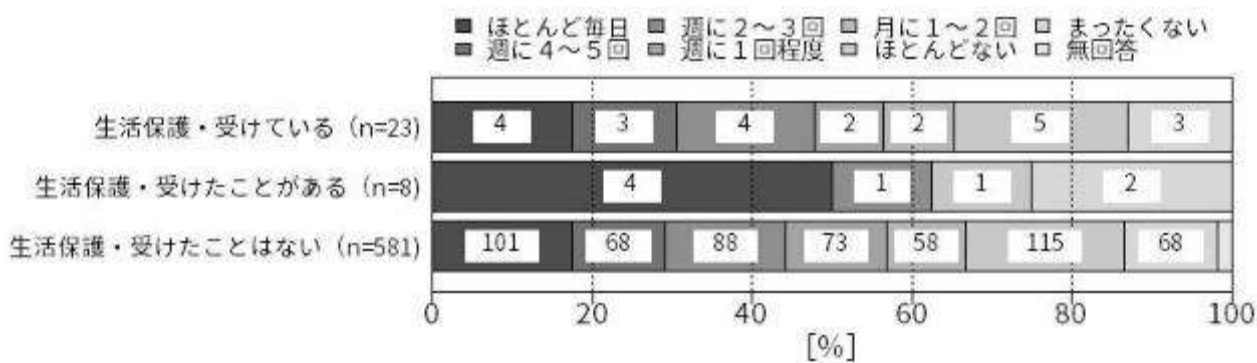


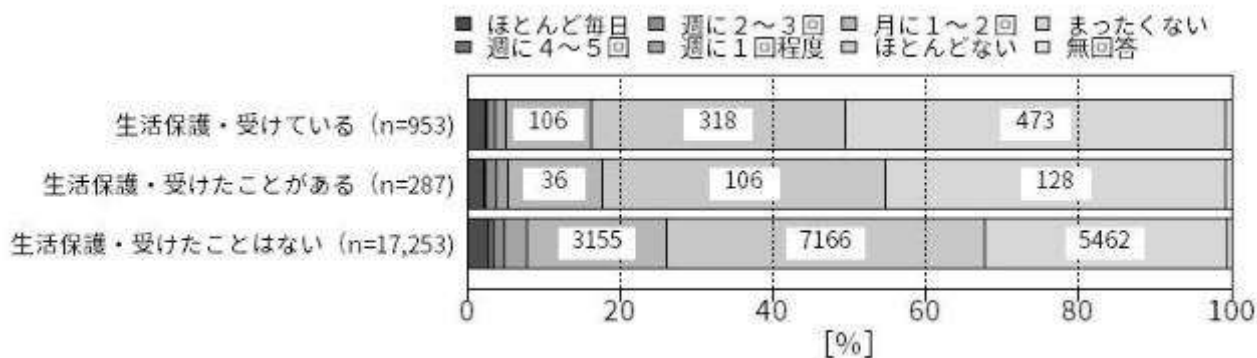
図 142. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
（おうちの大人と社会のできごとを話すか）

生活保護を受けたことがある世帯は少なかったため、この群と比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯・生活保護を受けたことがない世帯で大きな差は見られなかった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と文化活動をするか）
（保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10⑨）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

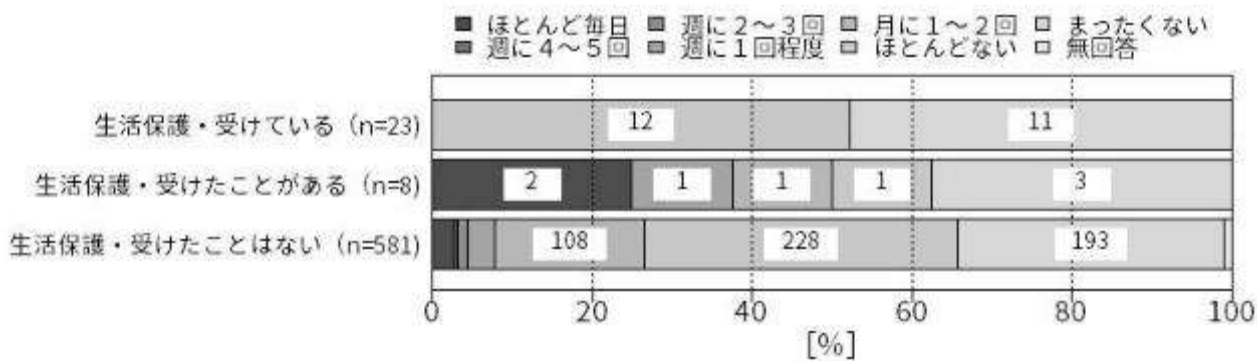


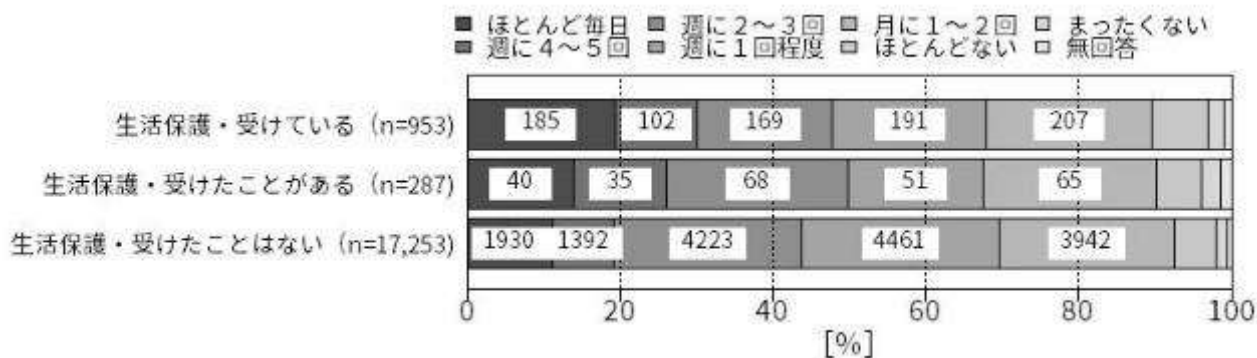
図 143. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
（おうちの大人と文化活動をするか）

生活保護を受けたことがある世帯は少なかったため、この群と比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人と文化活動することが「ほとんどない」「まったくない」と回答した子どもが合計 100.0%であったのに対し、生活保護を受けたことがない世帯では 72.4%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と一緒に外出するか）
（保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10⑩）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

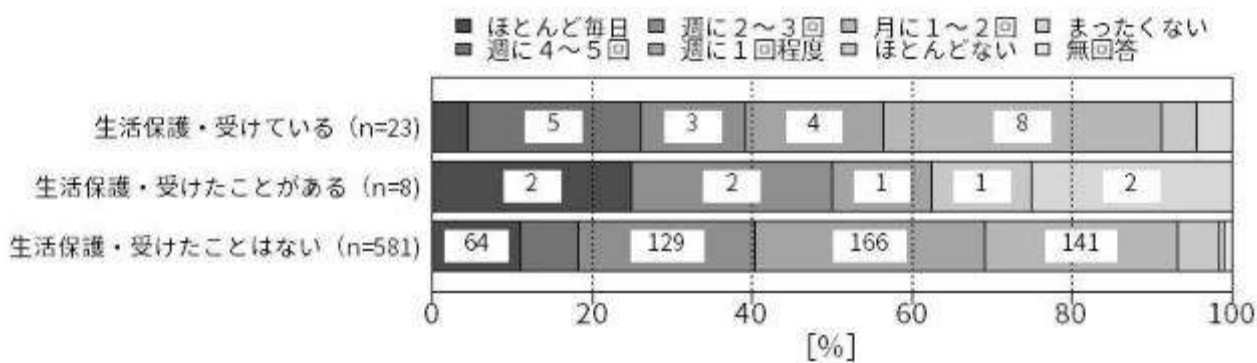


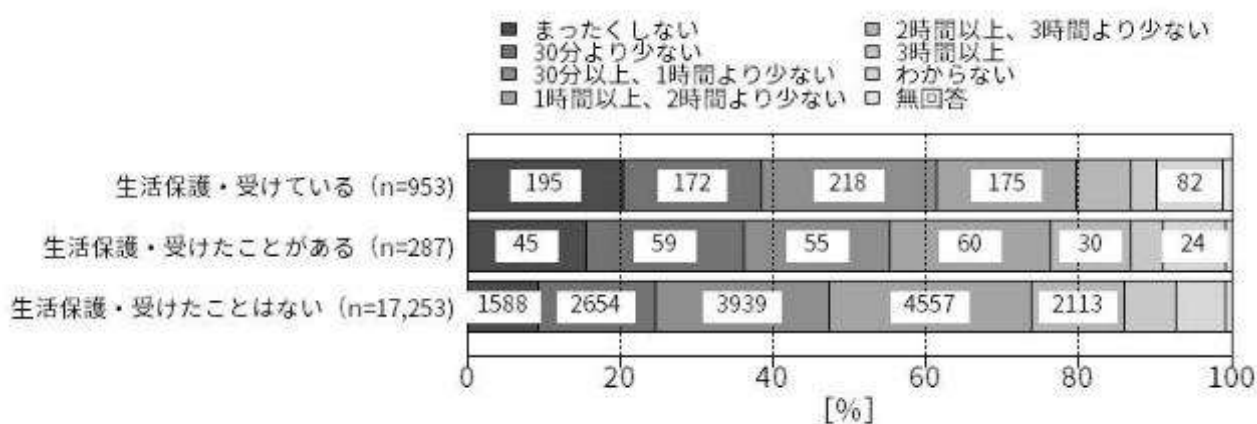
図 144. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
（おうちの大人と一緒に外出するか）

生活保護を受けたことがある世帯は少なかったため、この群と比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯で多かった回答は、おうちの大人の人と一緒に外出することが「月に1～2回」と回答した子どもで 34.8%、生活保護を受けたことがない世帯で多かった回答は「週に1回程度」で 28.6%であった。

生活保護の受給別に見た、授業以外の勉強時間（保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 14)

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

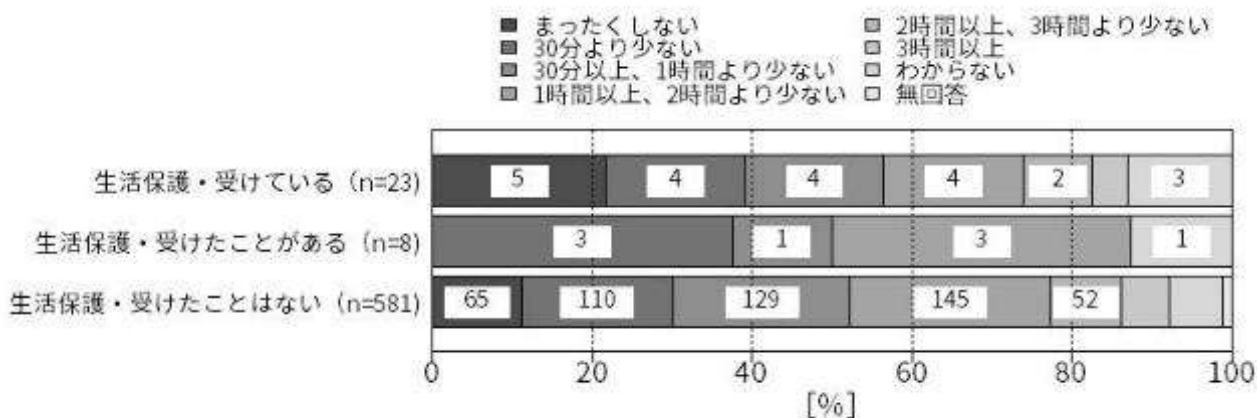


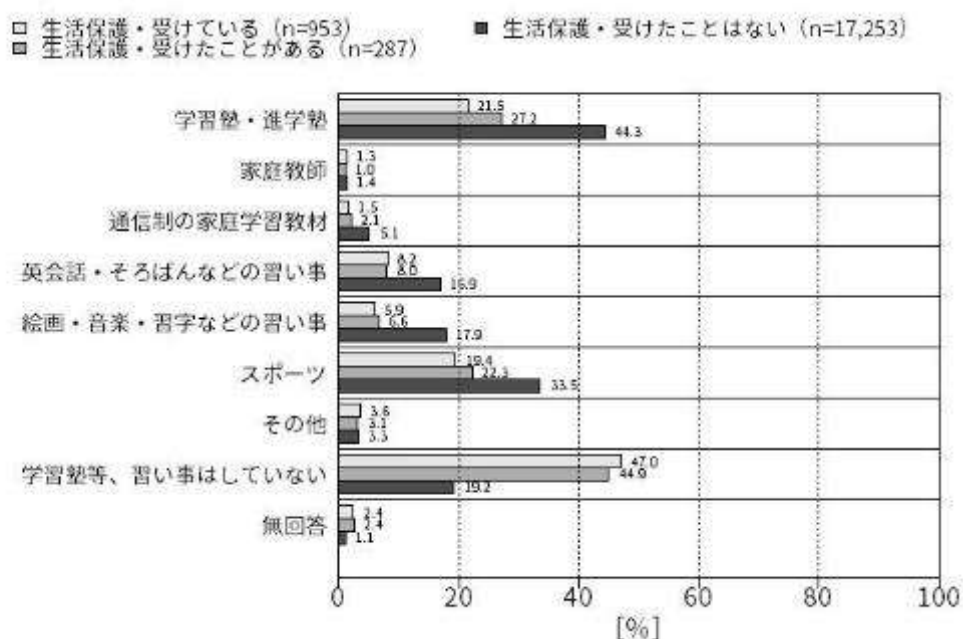
図 145. 生活保護の受給別に見た、授業以外の勉強時間

生活保護を受けたことがある世帯は少なかったため、この群と比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、授業時間以外に勉強を「まったくしない」と回答した子どもが 21.7%、生活保護を受けたことがない世帯では 11.2%であった。

生活保護の受給別に見た、学習塾等の利用状況（保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 15)

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

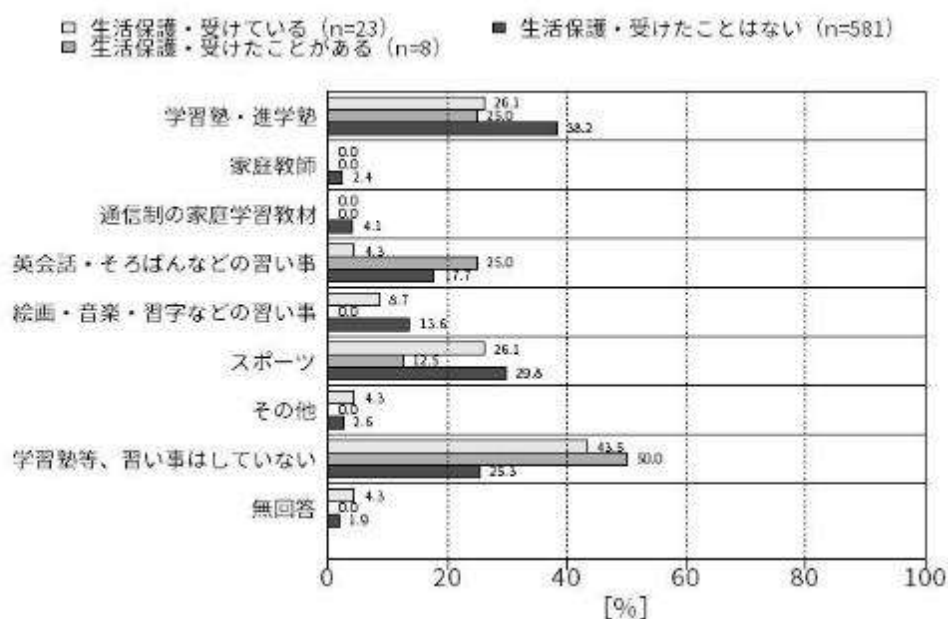


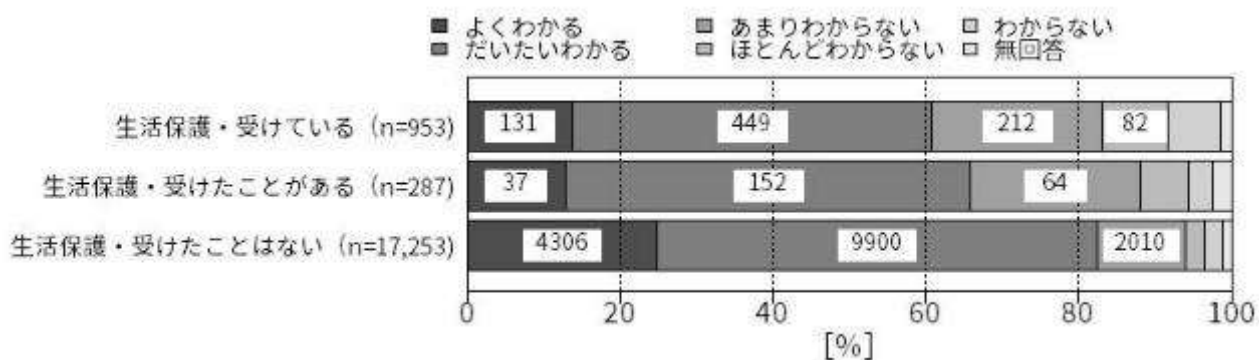
図 146. 生活保護の受給別に見た、学習塾等の利用状況

生活保護を受けたことがある世帯は少なかったため、この群と比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、「学習塾等、習い事はしていない」と回答した子どもが43.5%、生活保護を受けたことがない世帯では25.3%であった。

生活保護の受給別に見た、学習理解度（保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 18)

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

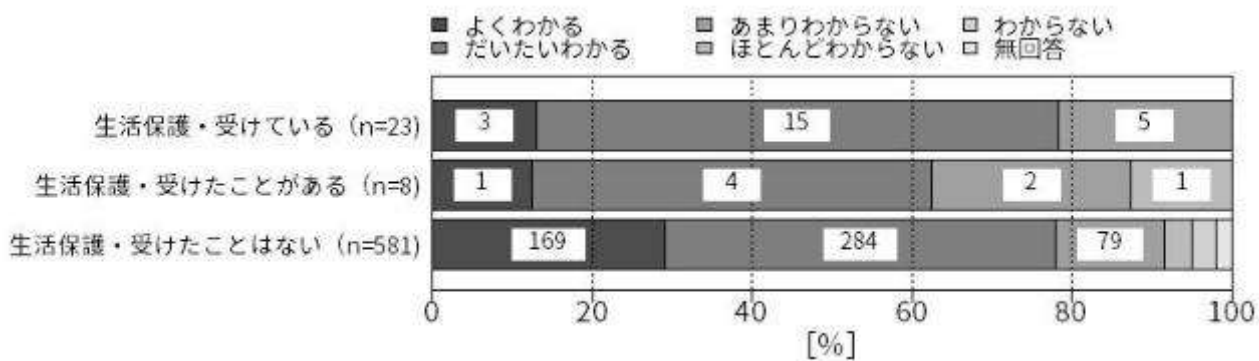


図 147. 生活保護の受給別に見た、学習理解度

生活保護を受けたことがある世帯は少なかったため、この群と比較して傾向を述べることはできない。

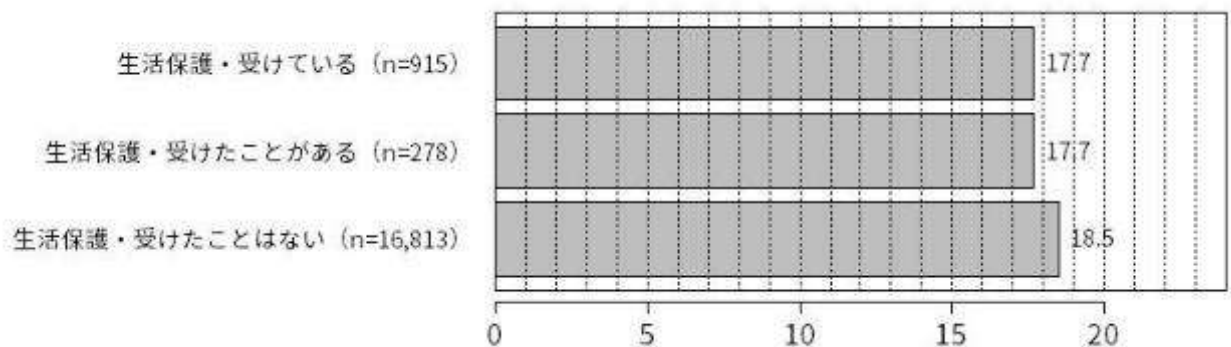
生活保護を受けている世帯では、学校の勉強を「よくわかる」と回答した子どもが 13.0%、生活保護を受けたことがない世帯では 29.1%であった。

生活保護の受給別に見た、子ども自己効力感（セルフ・エフィカシー）

（保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 26(1)～(6)）

※「自分に自信がある」「自分の考えをはっきり相手に伝えることができる」「大人は信用できる」「自分の将来の夢や目標を持っている」「将来のためにも、今、頑張りたいと思う」「将来、働きたいと思う」の6項目について、それぞれ4段階で評価させ、その値を合計した得点を、セルフ・エフィカシー得点とした。得点が高いほど、自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高いことを表す。

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

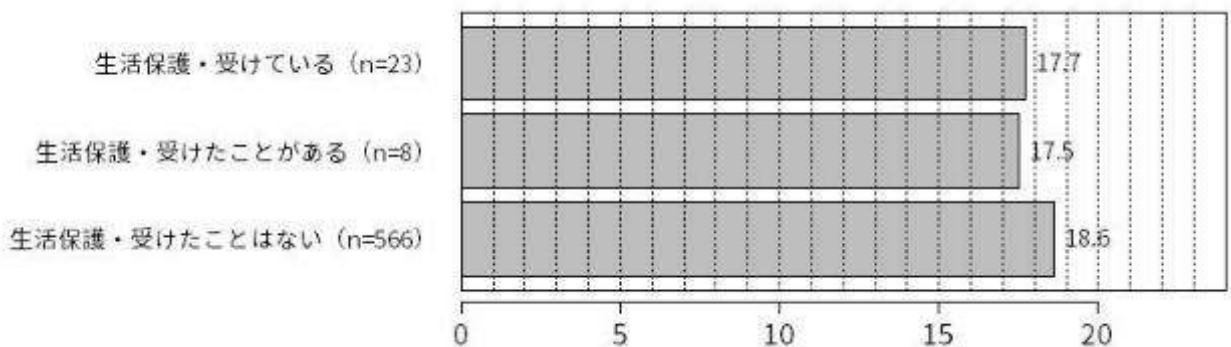


図 148. 生活保護の受給別に見た、子ども自己効力感（セルフ・エフィカシー）

生活保護を受けたことがある世帯は少なかったため、この群と比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の平均点が 17.7 点、生活保護を受けたことがない世帯では 18.6 点であった。